

# Society 5.0

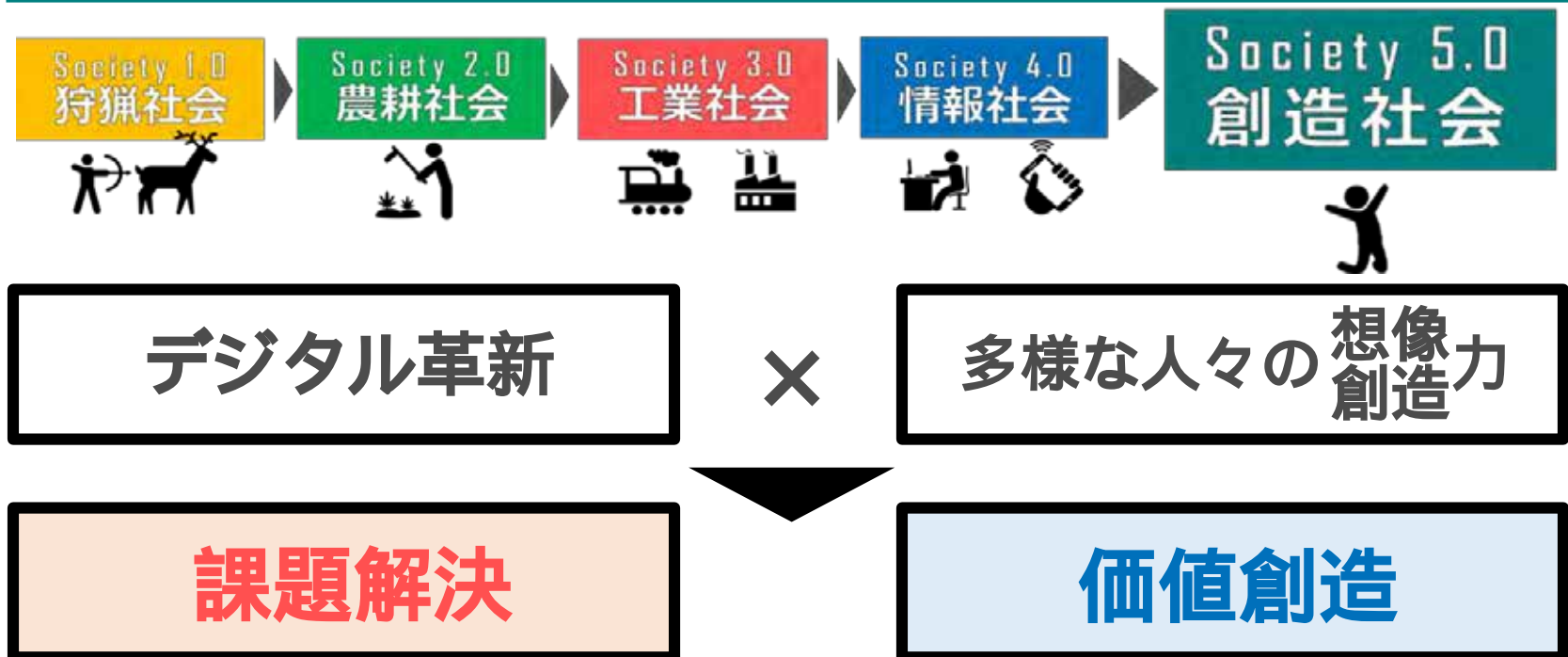
- 第6期科学技術基本計画策定に向けて -

2019年 12月 20日

一般社団法人 日本経済団体連合会

- n デジタル革新を人々の多様な生活や幸せの追求のために活用すべき。
- n 今後、人々には世の中を変える「想像力」と「創造力」が必要。
- n Society 5.0とは創造社会であり、「デジタル革新と多様な人々の想像・創造力の融合によって、社会の課題を解決し、価値を創造する社会」である。

## Society 5.0



第6期科学技術基本計画は、SDGsの達成に向けたSociety 5.0の実現を柱とすべき。



※ 経団連はSDGsを支援しています。

- n Society 5.0を世界に先駆けて実現するために、日本が目指すべき姿は、デジタル革新を先導し、多様性を内包した、成功のプラットフォーム。多様な背景を持つ人々が日本で成功のきっかけをつかむ。

デジタル革新



AI×データの力を  
人々が最大限に活用できるよう  
変革への体制を整える  
(AI-Ready化)

×

多様性の内包



日本のあらゆるところで  
多様な背景をもった人々が  
社会を変える挑戦を次々に行う  
(あらゆる多様性の内包)

成功のプラットフォームとしての日本

多様な人々が日本でさまざまな挑戦を行い、成功のきっかけをつかむことで  
日本から新たな価値が次々と創造され、それを通じてSociety 5.0を実現していく

- n 「企業」「人」「行政・国土」「データと技術」などにおいてさまざまな変革が必要。
- n 最も重要となるのは「企業」の変革。産業全体では、既存産業の保護ではなく、スタートアップの振興を第一に考えるなど、産業の新陳代謝を図っていくことが重要。

## 1 企業が変わる

- 産業の高付加価値化
- 産業の新陳代謝・構造変革の促進
- 大企業による「出島」
- 日本型雇用慣行のモデルチェンジ

## 2 人が変わる

- 多様なチームでリーダーシップ
- 文理分断からの脱却
- 平等主義からの脱却
- リカレント教育拡充

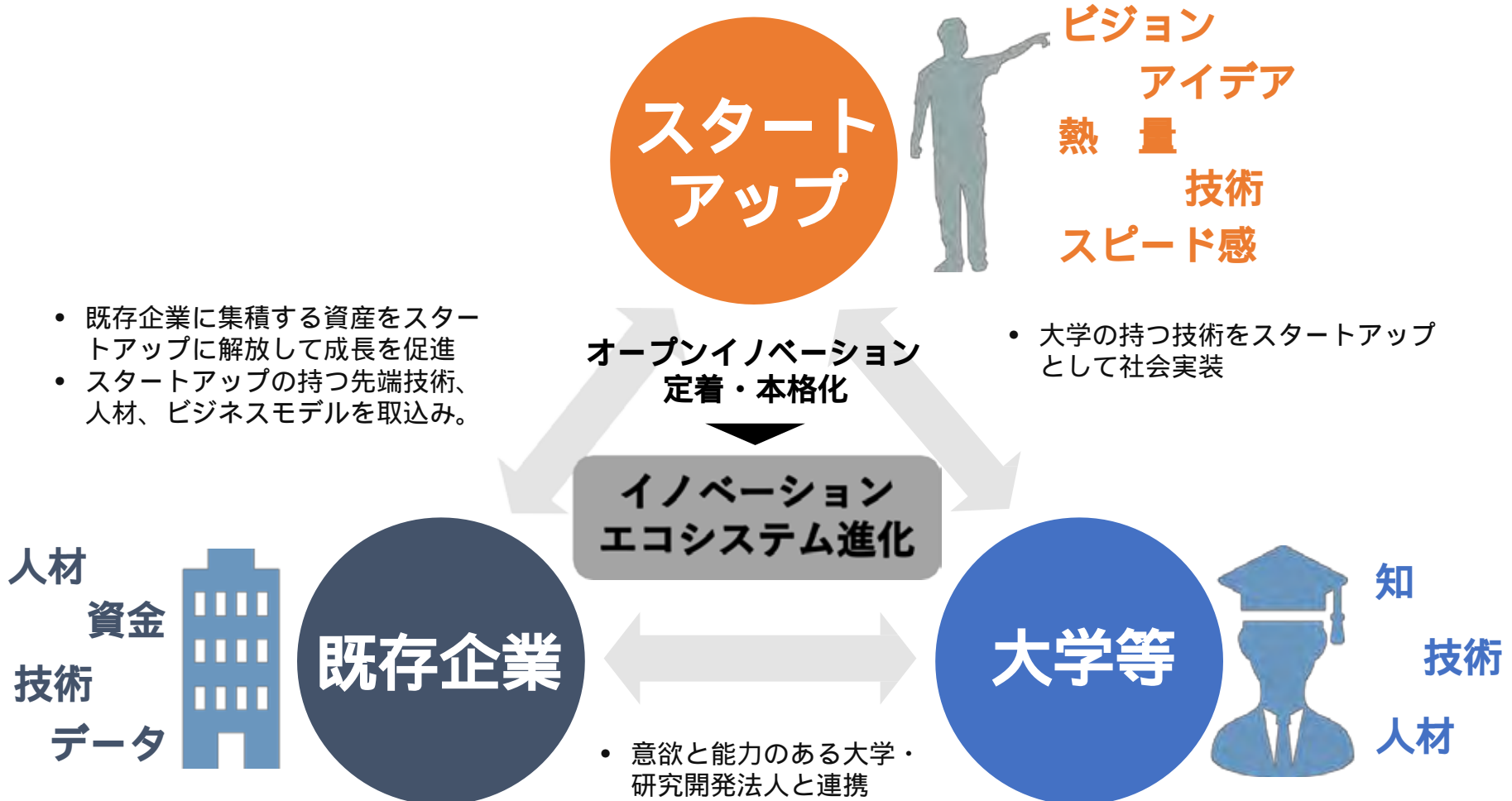
## 3 行政・国土が変わる

- デジタル・ガバメント
- 国土の分散化による多様性の推進

## 4 データと技術で変わる

- フィジカル空間からサイバー空間への展開
- 多種多様なデータの共有
- 「選択と集中」から「戦略と創発」へ

- スタートアップは、社会課題解決に向けたビジョンの明確性、その実現に向けたアイデア、熱量、技術の先端性、スピード感において既存企業を上回る。
- 産業活性化に向けて、スタートアップを中心としたあらゆる主体によるオープンイノベーションを図ることが重要。



## 文理分断からの脱却

- 文系・理系の垣根をなくす
- 基礎的なAI・数学・情報科学・生命科学等は、全ての大学生に必修化
- 複数領域に精通した人材育成のため、**ダブルメジャー**やメジャーマイナーを推進

## 平等主義からの脱却

- 全体のリテラシーを高めると共に、各領域で**突出した人材**の育成も重要
- 「結果の平等」ではなく「**機会の平等**」を目指す
- AI・データなど各分野のトップ人材が正当に評価され、高い報酬を得られる体制

## リーダーシップ人材の育成

- **多様性を持った集団の中でリーダーシップ**を発揮できる人材の育成
- グローバル企業では、早い段階から「出島」や海外拠点での勤務経験

## リカレント教育

- 変化に対応し、能動的に学び続け、**価値観を更新し続ける**必要
- **リカレント教育機会の拡充**や再就職等を支援する公的な職業訓練

## 1 デジタル・ガバメントの構築

- 行政のデジタル革新を断行すべきであり、政府が「デジタル・ガバメント実行計画」で掲げている3原則（「デジタルファースト」、「ワンスオンリー」、「コネクテッド・ワンストップ」）を徹底すべき。
- 多様化する社会課題の解決を図るためには、行政サービスに関わる多様な主体間で迅速にデータの共有・活用を図ることが求められる。

## 2 国土の分散化による多様性の推進

- 中央から地方に財源と権限を大胆に移譲するとともに、行政体についても現行規模から広域化を図り、資源の効率的な活用、強固な財源基盤の確保等により、地域の自立を促すべき。



## 1

### AI駆動型産業への転換とデータ戦略

- | 高度なAI開発とデータ分析のために、データを収集・共有することが重要。日本としては、フィジカル空間からサイバー空間への展開戦略を図るべき。
- | 安心して活用できるよう、AI原則の整備やプライバシー、サイバーセキュリティ対策は急務。

## 2

### 研究開発

- | 社会を変える基盤である「技術」の開発に国として十分なリソースを投入すべき。その際、「選択と集中」から「戦略と創発」への転換が必要。
- | 研究開発の拠点となる大学の研究力再生が急務。

## 1. 政府研究開発投資の量の確保

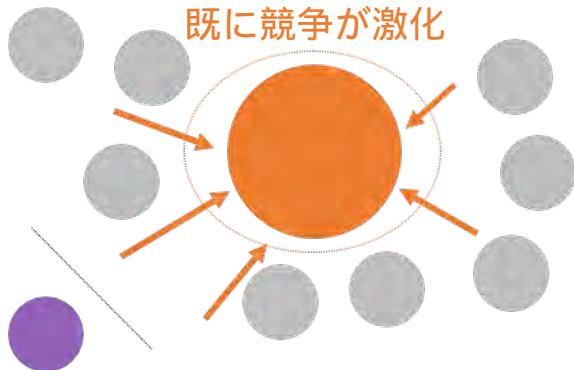
- n 量の確保が最重要課題であり、「対GDP比1%」の目標を着実に実行する必要。

## 2. 政府研究開発投資の質の向上

- n これまでの「選択と集中」から「戦略と創発」へと転換する必要。
- n **戦略的研究**：Society 5.0の実現を目指す研究  
→ 企業が中心的な役割を發揮し、政府が企業の取り組みを支援。
- n **創発的研究**：破壊的イノベーションをもたらすシーズの創出を目指す研究  
→ 政府が積極的に投資

### 選択と集中

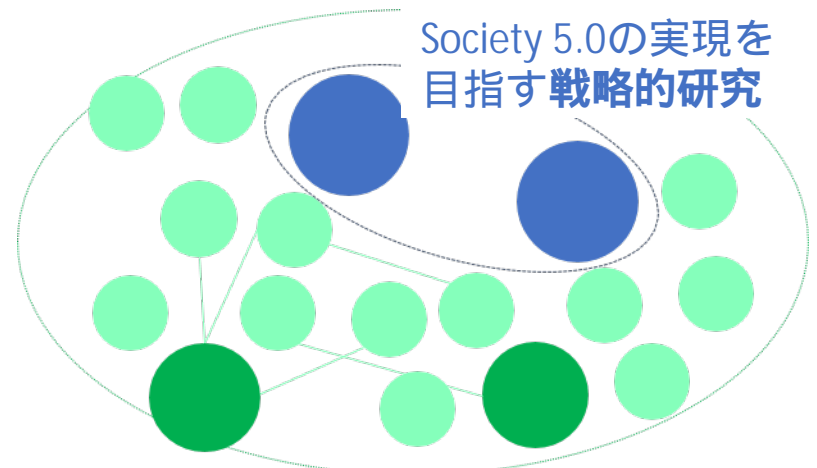
選択・集中する分野は  
既に競争が激化



破壊的イノベーションは選択から  
外れた想定外の分野から起きる

### 戦略と創発

Society 5.0の実現を  
目指す戦略的研究



課題や短期目標を設定せず、多様性と融合によって  
破壊的イノベーションの創出を目指す**創発的研究**

## 3. 戦略と創発の充実に向けたイノベーションエコシステムの構築

- 戦略的研究と創発的研究を有機的につなげていくイノベーションエコシステムの構築が不可欠。

